

叶かき

医療の原点は思いやり

2024
JULY

26
vol.

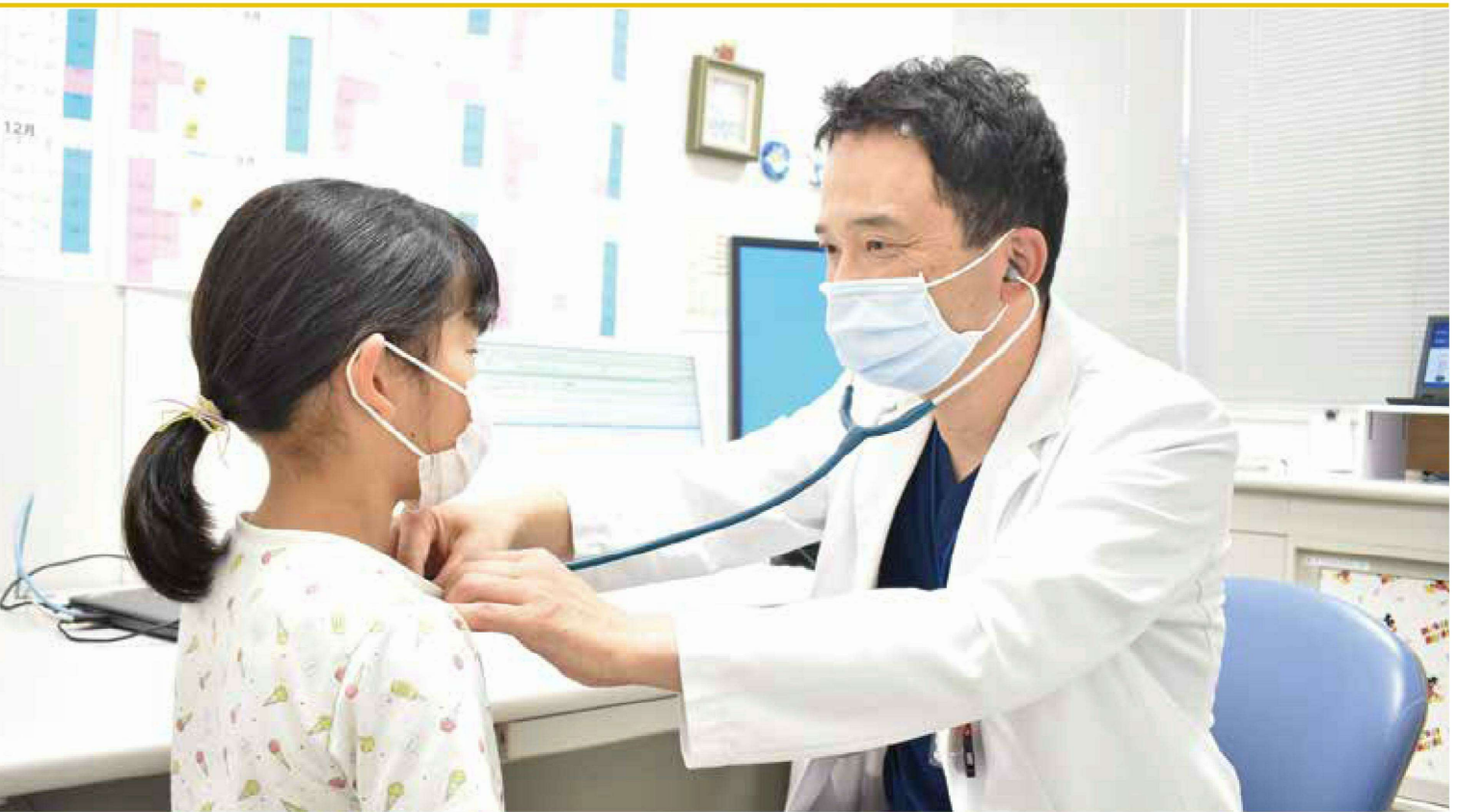


特集

地域の子どもの健康を守る

地域の子どもの健康を守る

～新生児から思春期まで、幅広い疾患に対応～



磐田市立総合病院小児科では、「地域の子どもの健康を守る」を診療科のミッションとして、外来、救急、入院治療に加えて、周辺の開業医師や自治体との連携、専門外来の設置、産科との協力、若手医師の育成を重視しています。指導医や専門医資格をもつ医師4名を含め、計9名の小児科医が協力し、出生時からおおむね中学卒業までのお子さんの診療をしています。また、看護分野では今年度から、外来と病棟を同じメンバーによる小児科看護師チームで担当する体制を開始しました。入院の経緯、病棟での治療、退院後の経過を把握しやすくなるため、患者さんや家族も安心して治療にのぞめると考えています。

かかりつけ医との連携、救急対応の充実

一般的な診療は地域のかかりつけの医師が担当し、より詳しい検査や入院が必要な場合は当院が担う連携体制が整えられています。近隣の小児科医から当院への紹介件数は2021年度742件、22年度751件、23年度876件とこの3年間増加傾向です。

当院は、周産期母子医療センターにNICU(新生児集中治療室)を併設しているため、常に院内に小児科医が在院しているのが強みです。救急外来はまず、その日の救急外来担

当医が診察し、詳しい検査や入院が必要な患者さんには小児科医が救急外来に出向き、対応しています。

けいれんやアレルギーによるショックなど、救急車での搬送患者は、小児科医が直接対応します。また基本的に救急車をお断りすることはありません。

発達に関する相談は、市の発達支援センター「はあと」と連携し、医療受診が必要な方の診療を行っています。



当院小児科医師



上級医師の指導を受ける若手医師

多岐にわたる専門外来を開設

当院は6つの専門外来を開設しています。

● 内分泌外来

低身長や甲状腺疾患、糖尿病などの診断と治療

● 心臓外来

先天性心疾患の診断とフォロー、不整脈や川崎病の管理

● 神経外来

てんかん、先天性神経疾患や筋疾患などの診断と治療

● 血液外来

貧血や凝固異常症などの診断と治療、血液腫瘍等の診断

● アレルギー外来

喘息やアトピー性皮膚炎、食物アレルギー等の診断と治療

● 腎臓外来

先天性尿路奇形、慢性腎炎、尿路感染症などの診断と治療

中東遠地域唯一の周産期母子医療センター

2010年に開設した周産期母子医療センターは、出産前後から産科と小児科が協力し、母子の健康を守っています。お産の数自体は減っていますが、低体重出生児の割合は増えています。当センターでは、リスクのない方はもちろん、出産前後にリスクを伴う可能性がある妊婦さんも受け入れていま

す。新生児の受け入れは、妊娠32週以降、体重1500g以上です。また地域の産科医からの紹介を受け、胎児期から関わる事例もあり、このような方々に対しては、産科と小児科で毎週周産期カンファレンスを開き、出産前から治療計画を話し合っています。

若手医師が幅広い症例を学ぶ場

当院は、将来の小児科を担う若手医師の研修の場として選ばれています。小児科分野の幅広い疾患、軽症から重症例、出生時から思春期までのさまざまな患者さんに対応することで、広く深い知識と経験を積み重ね、小児科医として成長しています。



小児科部長
周産期母子医療センター副センター長
遺伝相談室長

おお たか こう の すけ
大高 幸之助

小児専門病棟の開始で、 外来と入院の切れ目ない看護を提供



3階西病棟看護師



クリスマス会



多職種によるカンファレンス



プレイルーム

3階西病棟は、小児専門の病棟であり、2024年4月から病棟看護師は小児科外来業務も担うようになりました。

小児病棟は、小児科特有の疾患の患者さんだけでなく手術前後の患者さんまで、15歳未満のあらゆる科の患者さんが入院される病棟です。感染症の患者さんが多いことや、発達段階が様々であることを考慮し、病室を有効に活用しています。また、患者さんの年齢や運動発達に応じたベッドの選定や病棟内の環境整備を行い、安全に入院生活が送れるよう配慮しています。入院生活は、慣れない環境や治療への苦痛・不安があると考えられるため、患者さんだけでなくご家族にも丁寧な説明や笑顔での対応を心がけています。また、少しでも入院生活の中で笑顔が引き出せるよう、夏祭りやクリスマス会などの季節毎のイベントを開催しています。

小児病棟では、毎日医師・看護師など多職種でカンファレンスを開催し、入院中の患者さんだけでなく外来通院中の患者さんについても情報共有をしています。入院時から退院を見据えた関わりをし、退院後も安心して生活ができるよう、患者さんやご家族に寄り

添う看護を大切にし、多職種で介入をしています。

小児科外来は、一般的な感染症や流行性疾患だけでなく、喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、神経疾患、発育や精神運動発達の問題を抱える子どもなど、多岐にわたる疾患の診察や予防接種などを行っています。診察や処置が安全かつスムーズにいくように病棟と外来の看護師が連携をとり、患者さんの不安や負担軽減につながるよう努力しています。

病棟と外来を一元化することで、外来受診から入院へ、退院後から外来通院へと、顔の見える関係が増え、患者さんやご家族だけでなくスタッフの安心にもつなげることができています。患者さんのためによりよい看護が提供できるよう、スタッフ一丸となって努力していきたいと思ひます。



3階西病棟

すずき
鈴木 師長

◆専門看護師とは

専門看護師とは、水準の高い看護を効率よく行うための技術と知識を深め、卓越した看護を実践できると認められた日本看護協会が認定している看護師です。

◆小児看護専門看護師の役割

あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に対して、子どもの最善の利益が守られるように、子どもと家族のもつ力をサポートし、成長・発達を見据えた看護を提供します。健康障害をもつ“子ども”だけでなく、そのきょうだいである“子ども”、また親や家族が病気という境遇にある“子ども”の支援も考えていきます。



診察前の身体測定の様子

◆私が大事にしていること

小児看護の主体は子どもです。子どもの最善の利益を考え、子どもの笑顔を大事にします。

また、子どもを取り巻く周囲の人たちのことも考え、子どもの周りの大人の笑顔も大事にします。発達段階とともに変化する困り感に寄り添い、成長とともに変化する病態や適応力を見極め、その子とその子らしい成長発達を遂げることができるようお手伝いします。

小児看護専門看護師 ますい 増井 看護師



けやきの木の下で ～ちよつと役立つ話～

小児 薬の飲ませ方

薬剤部 しいな 椎名 薬剤師



飲み薬の回数と時間

小児の場合、特に乳幼児は食後にお腹がいっぱいで薬を飲まなくなる場合があります。

食後服用の指示になっていてもお薬の効果がなければ、食前もしくは食間に飲ませても構いません(特別な場合を除き、食前、哺乳の前に内服することを推奨しています)。内服間隔についてはお母さんとお子さんの生活リズムに基本お任せしていますが、1日3回の場合は内服間隔5～6時間程度あけられるように調整してください。

粉薬の飲ませ方

〈乳児期〉

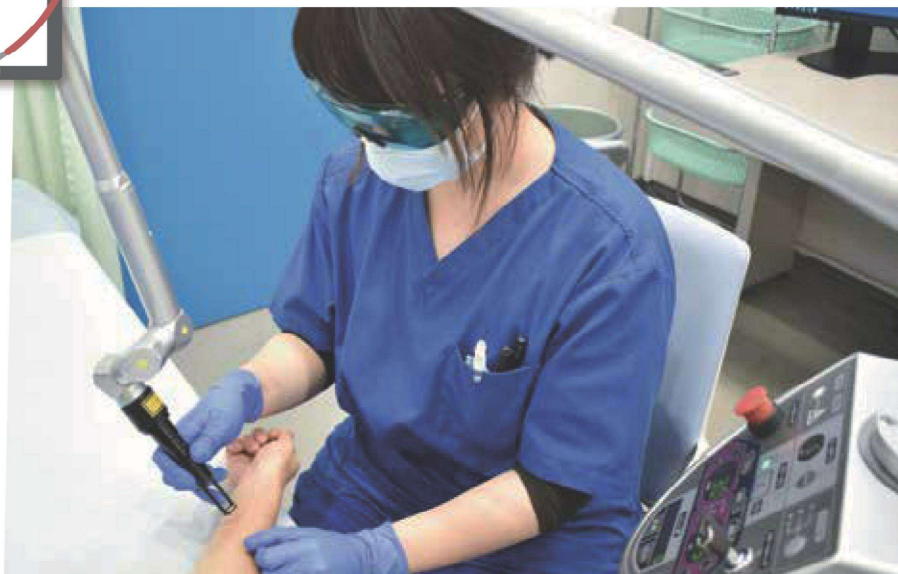
少量の水またはぬるま湯で1回分の粉薬を練り、清潔な手で頬の内側か上顎に擦りつけて水を飲ませてください。
※ミルクに混ぜるとミルクの味が変わってしまい、ミルク嫌いの原因となる可能性があります。ミルクでお薬を飲ませるのは避けましょう。

〈幼児期〉

そのまま飲めない場合は、左記と同様に上顎へ擦り付ける方法、またはお子さんの好きなものに混ぜて内服させてあげてください。ヨーグルト、ジュース、アイスクリーム等が適当ですが、薬によっては飲み合わせが悪く効果に影響が出たり、苦味が増したりする場合がありますので、何か気になる点や、不明点がありましたら薬剤師にお問い合わせください。

子どもだから理解できないと思わず、お薬を飲む理由(病気、症状が改善しやすくなること)をわかりやすく説明してあげることが大切です。飲めたらしっかり褒めてあげましょう。🍀

子どものあざに対するレーザー治療



レーザー治療を行っている様子

異所性蒙古斑などは保険診療が可能

レーザーはあざや傷痕など様々な皮膚疾患の治療に使われますが、レーザーの種類によって治療できる疾患の得意分野があります。当院にはQスイッチルビーレーザー(以下QSRL)というレーザー機器があり、これは皮膚の特定の色素を破壊することであざを淡くしてくれます。QSRLが得意とする(=保険診療が認められている)のは「異所性蒙古斑」「扁平母斑(カフェオレ斑)」「太田母斑」「外傷性色素沈着」の治療です。この中で、子どものうちに治療する機会の多いあざが異所性蒙古斑と扁平母斑です。

生まれつき赤ちゃんの臀部にある青～灰色のあざは「蒙古斑」といって見たことがある方も多いと思います。「異所性蒙古斑」は蒙古斑と同じようなあざが、臀部以外に現れるものです。いずれもメラニン色素が真皮に集積したもので、年齢とともに自然にうすくなっていき、多くの場合は学童期までに消失します。ただし、異所性蒙古斑の中には通常の蒙古斑よりも色が濃かったり広い範囲に現れたりして成長しても消退せず整容的に問題となる場合があるため、レーザー治療を行います。1回照射してから効果や副作用を観察し、3か月以降に必要があれば追加の照射をします。5回まで保険診療での照射が認められています。

乳幼児の早期照射が効果的

「扁平母斑」は生まれつきもしくは幼少期に発現することのある茶色のあざで、大きさや形は様々です。メラニン色素が表皮に集まって生じるもので、異所性蒙古

斑と同様にQSRLでメラニン色素を破壊します。ただし扁平母斑はレーザーの効果がでにくく、一度消退しても再発することが多かったり場合によっては照射することでかえって色調が濃くなってしまったりすることもあるため、慎重に治療を行います。保険診療での照射は2回までです。

ほとんどのあざは身体の成長に悪影響を及ぼしませんが、目立つ部位にあざがあることで悩んでしまう方は少なくありません。レーザー治療によりあざがうすくなることで気持ちがすこし軽くなれば嬉しいです。治療は何歳からでも始められますが、乳幼児の早期に照射した方が効果的です。気になっているあざがある方は、まずは一度専門の医療機関で相談してみてください。



異所性蒙古斑



形成外科 部長 谷口 佳代子

所属学会

日本形成外科学会専門医・指導医
乳房再建エキスパンダー/
インプラント責任医師

院内日記

磐田市立総合病院ニュース

病院事業管理者方針発表会開催!

当院では、毎年年度初めに病院事業管理者から職員に対し、今年度の運営方針や今後の中期的なビジョンについての発表があります。

今年度は「2040年を見据えた病院運営を考える～三方よしのwell-beingをめざして～」と題して開催されました。

病院事業管理者からは、はじめに日々職員が丸となって頑張っていることへの感謝の言葉がありました。

地域から必要とされる病院であり続けるために、時代背景を踏まえた健全な病院経営をめざしていくこと。また、病院職員として人としてのセンスを磨き、課題に果敢に挑戦し、さらに前進していこうといったお話があり、職員全員の気持ちがさらに結束するものになりました。



性の多様性

LGBTQ講演会を開催しました!

5月24日に鳥取大学 医学部 環境予防医学分野 特命助教授 金弘子先生を講師に迎え、「だれもが安心して過ごせる医療機関を目指して」をテーマにLGBTQ講演会を開催しました。LGBTQの基礎から医療現場で役立つ対応法など、実例をまじえて分かりやすくご講義いただき、医療現場で実践できる知識をより一層深めることができました。

当院では昨年度より診察券への性表示の廃止を行いました。また、本年度は病棟スタッフで性別違和のある患者の入院を想定したシミュレーションを行いました。これらの活動について、大変画期的であると金先生よりお褒めの言葉を頂きました。

当院は地域に住む「だれもが安心して受診ができるよう、今後も努力してまいります。」



iwatagram

職員の特技や趣味を紹介します



あまの
天野 診療放射線技師

バスケットボールが好きです。休日は家族で社会人チームに参加したり、Bリーグを見に行ったりしています。



#目標はチームの50代プレイヤーママ #バスケットボールが好き
#娘はバスケットよりチアリーダーが好き

作ってみよう!

ハッピー レシピ

NO.26

総量 (1人前あたり)

エネルギー 125kcal たんぱく質 11.3g

脂質 6.9g 炭水化物 5.3g

食塩相当量 0.7g

材料(4人分)

- ・卵 4個
- ・キャベツ 200g(4枚)
- ・豚ひき肉(赤身) 80g
- ・小ねぎ 適量
- ・油 少々
- ・ソース 適量
- ・かつお節 適量
- ・青のり 適量



お好み焼き風 卵焼き

作り方

- ① キャベツは短めの千切りにする。
- ② フライパンに少量の油を入れて熱し、豚ひき肉、キャベツをよく炒める。
- ③ 溶きほぐした卵をフライパンに流し入れ、軽くかき混ぜて丸く形を整える。
- ④ 小ねぎを散らし、蓋をして蒸し焼きにする。
- ⑤ お皿を使ってひっくり返し、もう片面も焼く。
- ⑥ お好みで、ソース、かつお節、青のりをかける。



当院管理栄養士

子供にも人気のメニューです!

小麦粉を使わなくても、お好み焼きが楽しめます。
冷蔵庫にある材料で手軽に作れますので、お弁当やランチの一品にいかがですか。

病院からの
お知らせ

健診センターのWeb予約について

2024年度より、個人ドックならびに磐田市国保ドック、磐田市後期高齢ドック、女性がん検診は、インターネットでのWeb予約が可能となりました。

予約の電話をしたいのに受付時間を過ぎていて予約ができないでいた方も、Webからなら24時間ご予約の受付が可能です。

パソコン、スマートフォンからご利用できますので、ぜひご利用ください。

従来通り、お電話でのご予約も引き続き行っていますので、そちらもご利用ください。

Web予約
QRコード



磐田市立総合病院

〒438-8550 静岡県磐田市大久保512番地3

TEL:0538-38-5000 FAX:0538-38-5050

<https://www.hospital.iwata.shizuoka.jp>



過去の『けやき』
はこちら



Instagram
はこちら



Facebook
はこちら